



国際酪農連盟日本国内委員会

Japanese National Committee of International Dairy Federation



IDF ホームページ / <http://www.fil-idf.org/> / ファクトシートより

IDF 文書を JIDF 事務局が仮訳

IDF ファクトシート 2012年12月

薬剤耐性

薬剤耐性菌が出現する現象は、ヒトと家畜の疾病に対する治療方法の管理に重大な影響を与えています。乳牛でもっとも一般的な抗菌剤の用途は乳房炎の治療と管理です。

文献レビュー

- IDF 家畜の健康・福祉常設委員会による科学文献の総合的なレビューによれば、40年間に渡り乳牛に動物用抗菌剤が用いられてきたが、乳房炎起因菌の薬剤耐性について明白な変化がなかったことが分かりました。
- 乳房炎を引き起こす細菌が示す薬剤耐性については、約40年も記録されてきましたが、これが変化していることを示唆する証拠はなにも見つかっていません。
- 年代が異なる期間に分離された細菌の薬剤耐性を比較した、経験によって立証される試験は、過去30年間に記録された薬剤耐性のパターンが今日でも似たようなものであることを示しています。

将来の展望

- 抗生物質を慎重に用いることは、疾病管理の重要な要素であり、もっとも成功を収めた酪農管理計画のなかで生乳の品質を保証します。
- 乳牛と乳製品に関連した耐性菌と細菌中の耐性のモニタリングに関する独立した報告書は、慎重で絶えず警戒を怠らない管理の必要性を強調しています。

アクション



国際酪農連盟日本国内委員会

Japanese National Committee of International Dairy Federation



IDF ホームページ / <http://www.fil-idf.org/> / ファクトシートより

- IDF 家畜の健康常設委員会（現 家畜の健康・福祉常設委員会）は、過去のデータと比較しながら新しい研究成果を注視し報告してゆきますが、乳房炎を引き起こす細菌の薬剤耐性に変化が確認されれば酪農乳業にも警告を発してゆきます。
- 乳房炎の細菌に薬剤耐性菌の増加が確認されれば、治療の処方箋を管理することにより耐性菌の抑制と拡散防止について、関係者が共同歩調をとりながら適切に対応することを IDF は提案してゆきます。

翻訳：JIDF 事務局

編者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。